

第 19 回情報システム学会全国大会・研究発表大会報告

さる 12 月 9 日、情報システム学会全国大会・研究発表大会が文教大学・湘南キャンパスで開催されました。大会テーマは、「情報システム学が拓く新たな DX 時代」としました。大会では、研究発表（ロング 4、ショート 9）、ポスターセッション（23）、研究会報告（1）、合計 37 件の報告があり、活発な議論がかわされました。基調講演では株式会社ブレインパッド取締役会長・高橋隆史氏から「なぜ、日本では DX が十分に進まなかったのか？」と題して、日本での DX に関する取り組みが不十分である現状の指摘と今後打つべき対策についてのお話がありました。ご講演では“失った 30 年間”に関するご指摘と今後我々が成すべき打ち手を明らかにして頂きました。基調講演を受けて、中嶋聞多本学会副会長の司会により、茅ヶ崎市企画政策部デジタル推進課長・山本卓也氏、一般社団法人日本情報システム・ユーザー協会（JUAS）専務理事・中島昭能氏、文教大学情報学部教授・阿部秀尚氏をパネラーとしてパネルディスカッションが行われました。パネラーによる発表に続く議論では、人材育成と標準化に関する話題を中心に議論が交わされました。

引き続き、「情報システム学」の電子出版に関して新情報システム学体系調査研究委員会報告がありました。その後、「浦昭二記念賞」の表彰式が執り行われ、静岡大学名誉教授・愛知工業大学客員教授・水野忠則氏に実践賞が贈られました。メイン会場の最後のセッションはスペシャルセッションとして、「自治体から見た自治体情報システム標準化・共通化の現状と課題」と題して、岩崎和隆本学会常務理事の司会により、横浜市デジタル統括本部企画調整部住民情報基盤課長・鈴木崇広氏、一般社団法人デジタル広域推進機構 代表理事（戸田市企画財政部デジタル戦略室長）・大山水帆氏、いばらき自治体クラウド（笠間市政策企画部デジタル戦略課情報政策調整官）・長谷川尚一氏により、デジタル庁が進めている自治体情報システム標準化・共通化について、地方自治体が抱える現状と課題の講演があり、質疑応答が交わされました。

午後のメイン会場で開催された基調講演以降の各セッションは本学会では初めてのハイブリッド開催となりましたが、大会実行委員、7 名の学生、開催校事務局の協力により無事に大会を運営することができました。大会参加者、大会関係者に感謝いたします。当日は開催校の学生を含め 122 名の参加があり、大会は終了しました。

メイン会場でのハイブリッド開催にあたっては、オンライン参加者に待機室でお待たせし、講演者へのポイントの画面上での利用周知、質問者の会場マイク利用の徹底が至らず、聴講者の皆様にご不便をおかけしたとと推察いたします。この場を借りて、お詫び申し上げます。これに懲りず、今後も今や世界標準となりつつある学会のハイブリッド開催、学会の各種イベントなどのオンライン配信を駆使し、本邦での情報システム学に関する普及活動が加速されることが望まれます。

末筆とはなりますが、全国大会の開催にあたり、企業 5 社から協賛を頂きました。また

14 の学会、協会、企業からご後援を頂きました。紙面上からとなりますが、協賛、後援を頂いた団体の皆様にご報告とお礼を申し上げます。（大会実行委員長 阿部秀尚）